

平成 22 年 1 月 6 日、定年を目前に人間ドックを受けました。そして、2 月の中旬に消化器科の精密検査をするようにとの通知が届きました。

その後、初めて体験する胃カメラやCT等の検査を受け、3 月 4 日に検査結果を聞きに病院へ行きました。名前を呼ばれて先生の前に座った瞬間に、いとも簡単に「胃がんでした。」と告知されました。そして、「早期に判ってよかったです。でもこの部分が少し入り込んでいるので手術が必要です。手続きしますから外科に回ってください。」と言われました。写真を見せて説明していただきましたが……初めてで理解できませんでした。それから外科での受診を待ちました。今度は夫と一緒に診察室に入ってくれました。先生からは「全摘かもしれないね。」と、これまたあっさり言われました。私は内心で今まで胃の具合が悪くてなんてこと無かったのに簡単に全部取るなんてと叫んでいました。でも、結果が判った以上放っておくわけにも行きません。こうなったら 1 日でも早く手術をしていただきたいとのことで 3 月 15 日の予約を入れました。

入院までは、検査のための通院、仕事の残務整理や引き継ぎ、入院に際しての準備……等で忙しく、正直言って心配や恐怖を感じている余裕はありませんでした。

入院後は、まな板の上の鯉となり、なにもかも主治医の先生や看護婦さんにお任せし、家族や親せき、友人の励ましを受け運を天に任せて手術に臨みました。心配していましたが、幸いにも胃の 1/3 は残していただくことが出来ました。術後の回復も順調で、目立った摂食上の障害も残らず、家族や友人からは手術前と変わらないねと半分あきれられたりしています。

しいて変わったところは体重です。術前には膝への負担を軽くするために努力しても減少しなかった体重が一気に減少しました。でも、そのお陰か膝の痛みが消えました。やや痩せすぎの域にいますが、私にとっては今の体重がベストなのかもしれません。

なお、術後 5 年間は再発・転移の心配があると聞いています。不安になることもありますが、くよくよしないで定期的に検査を受けながら今を楽しもうと努力しています。

退職後は健康で充実した人生を送りたい。そのために健康状態をチェックして健康の維持増進に励もうとの思いで受けた人間ドックによって幸いにも助けられました。初期のがんは自覚症状が全くないということも身を以て体験しました。このことを皆様にお伝えし、一人でも多くの方が健診を受けて頂けるようになればと願っています。